

(日置郡日吉町吉利六ツ坪)

**位置と環境**

本遺跡は、町のほぼ中央部に位置し、大川の河口近くに広がる水田に延びる標高約7mの台地端に立地する。海岸線までは約900mと近い。

**調査の経緯**

調査は、県営圃場整備事業に伴い町教育委員会によって県教育委員会の協力を得て、平成2年に分布調査、平成7年に確認調査および一部本調査を実施した。

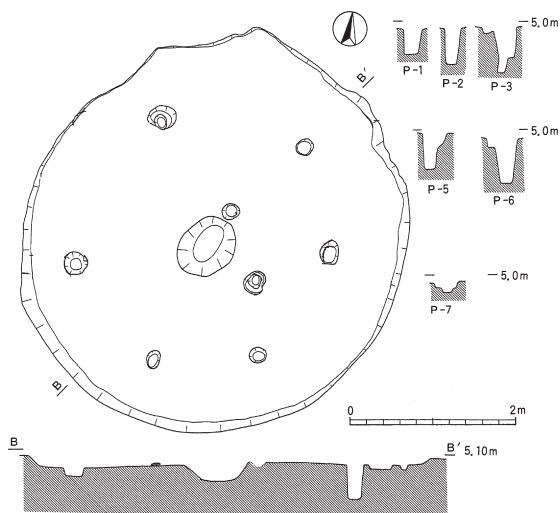
**遺構と遺物**

縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の複合遺跡である。

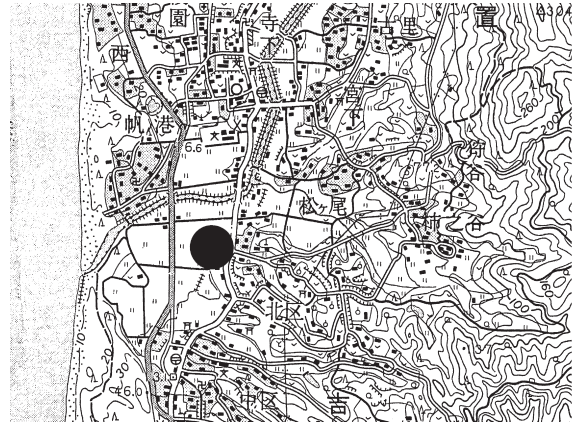
遺物は、縄文早期の押形文土器、塞ノ神式土器、晩期の突帯文土器などの土器をはじめ、石鎌・打製石斧・磨製石斧・石皿・磨石などの石器が出土した。

弥生時代は、前期を中心として中期の土器も出土している。

弥生前期の遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑2基が検出されている。竪穴住居跡は長径5.1m、短径4.5mの不正円形の平面形をし、深さは8～15cmある。床面は粘土質の土で貼り床をし、6本の柱穴がほぼ等間隔で円形に巡っている。中央に炉穴があり、その周囲に2本の柱穴がある。中からは甕形土器と壺形土器が出土している。土坑は長径1.75m、短径1.39mの楕円形をし、深さが25cmある。一方の土坑



第2図 弥生時代前期の竪穴住居跡



第1図 六ツ坪遺跡の位置

は2.36m×2.06mの方形に近い形をしており、深さは20cm程度である。埋土中より甕形土器が多く出土しており、砥石もみられる。

弥生土器は、前期の甕形土器・壺形土器・鉢形土器・高杯形土器、中期中頃から後期前半の甕形土器・高杯形土器などの出土がある。石器は石庖丁などに孔をあける道具である磨製穿孔具が出土した。

古墳時代は、竪穴住居跡1軒が発見された。その規模は3.1m×2.9mの方形に近い平面形をし、深さは16cmある。柱穴・炉跡などははっきりしない。中からは甕形土器と鉢形土器・高杯形土器などが出土している。出土遺物から4世紀頃のもので、台地からは広い範囲にこの頃の土器が出土している。

奈良時代から平安時代のものと思われる多くの柱穴が発見され、その中には大規模なものもあるが、建物としてまとまってはいない。土師器・須恵器のほか、焼塩土器・越窯系青磁・土錘なども出ている。

**特徴**

- ・南九州への稲作伝播の様相を住居跡、出土品などでうかがい知ることのできる貴重な遺跡である。
- ・土器の分類によって弥生時代前期から中期にかけての土器編年が可能となる。
- ・古代の土器等の分析によって分類が可能となる。

**資料の所在**

出土した遺物は、日吉町教育委員会に保管されている。

**参考文献**

日吉町教育委員会1996「六ツ坪遺跡」『日吉町埋蔵文化財発掘調査報告書』2 (池畑耕一)